

沖縄県名古屋情報センター長
芦谷一博さんインタビュー

十月十二日 毛遊びに沖縄県名古屋情報センターセンター長 芦谷一博さんが「来場になり、ステージ上で挨拶を頂きました。その後貴重なお時間を少し頂戴してお話を伺うことができたので皆様にご紹介致します。

また毛遊び当日、新規会員登録をしてくださった皆さんもたくさんいらっしゃいましたので、沖縄県名古屋情報センターについても先に少しご紹介させていただきます。

Q1、生年月日 家族構成、出身地とその地域の特徴などを教えてください。

A 昭和四十二年クリスマスの日大阪府の東大阪市で生まれました。東大阪市は、製造業の盛んな中小企業が多い、職人気質のまちで、様々なもの、人工衛星まで作っています。

Q2、子供の頃の思い出は、どんな子で、どんな遊びをしていましたか？

A 自転車で街に繰り出すような活発な子供時代を過ごしました。小学校時代は少年野球と水泳、中学からはサッカーをしていました。現在、日本代表にも選ばれた名古屋フロンパスで活躍中の田口くんには遠く及びませんが、頑張っ活をしておりまして。

Q3、青年期の思い出、夢や目標は

A 青年期には海外で仕事をしたいという夢を抱き、外国語の大学に進学して勉強に励みました。小学校のころ、アルゼンチンで開催されたサッカーのワールドカップを見たのがきっかけで日本の半分しか備えられておらず、船客は先を争ってポートに乗り込むが、ここでは女性客が優先のため男性の中には女装してポートに乗り込む事もありました。

緊急時でも女性優先はお国柄の違いですね。そんなハニック状態をしり目に数人の英国紳士が後部甲板で亡くせ死ぬのならば紳士らしく死にたいものだど冷静にヴァイオリンの伴奏で賛美歌を合唱しながら船と運命を共にして海底に沈んでいきました、実に感動的でした。

私は石垣でたまたま賛美歌を習っていましたので、この時歌われた賛美歌を日本語で歌っています。

讃美歌 320「向上」

主よ、みもとに近づかん
のほろみちは十字架に

ありともな悲しむべき
主よ、みもとに近づかん

石垣島の体験

母の骨盤骨椎骨折治療のため、台湾の基隆病院で1カ月ほど入院生活をおくり、やっと石垣島へ到着し、さっそく石垣国民学校3年に編入学しました。

石垣国民学校の創立…今から一三二年前の明治十四年十一月十五日 生徒数三十名
第一回卒業式…明治十九年七月二十六日 卒業生四名。



2013年8月31日 中日新聞
知多版に掲載された黒島さんの子供時代

の外にはいろんな国があつて、その国には様々な文化があるということを知つて以来、いつか海外にいつてみたいと思つていました。

語学は英語とロシア語を一生懸命に勉強したつもりですが、常時使っていないためなかなか身につかず、うちなーぐちも同じで多少聞けるようにはなりましたが、話すことはまだまだでも、もっと沖縄の文化全体を含め勉強したいと思つています。



沖縄県名古屋情報センター長
芦谷一博

Q4、夢や目標に向かつてどんな事を考え行動しましたか？若者たちのアドバイスとしてお聞かせください。

A なかなか目標が見つからず、自分とどんな仕事があつているのか悩んでいる方も多くかと思つていますが、その時の選択がベストではないにしても、目の前にあるチャンスを見逃してはだめだと思つています。まずは自分の選択したものとあえず何があつても3年は続けること、そうすれば次の段階が見えてくると思つています。中途半端に時間だけを浪費することが一番大切なことだと思つています。まずはやってみる、しかし一度決めたら簡単には投げ出さないこの気持ちが大切だと思つています。

Q5、沖縄と関わったきっかけは

A 海外志向だったのですが、大学時代に今の奥さんと知り合ったことをきっかけに沖縄を知り、沖縄に関心を持つようになりまして。そのうち沖縄の魅力にとりつかれ、現在縁あつて沖縄県職員としてお仕事をさせていただいておりま

時は移り 私は昭和二年三月二日、第六四回 卒業 卒業番号は連番の第3456号。石垣島では敵前上陸はなく沖縄戦の舞台にはなりませんでしたが、昭和十九年十月十二日に最初の空襲警報が発令され敵機来襲をうけました…。

愛知エイサー協議会
東北遠征の想い

今年での回目を迎えた、愛知エイサー協議会の東北遠征、エイサー臣下は何を想い、何を感じているのでしょうか。

『命業めちぐすい』

震災1年後から始まつた愛知エイサー協議会の東北遠征「命業めちぐすい」も今年で3回目になりました。遠征の目的は主に3つです。一つは「集めた義援金を被災地の子供たちに届ける」「仮設商店街にエイサー臣下の元気を届ける」「被災地の今の声を愛知の家族や仲間たちに届ける」。僕は先発隊として2日前から岩手県沿岸部に入り、まずは集めた義援金を商品券に換え、被災地にある子育て支援センターに届けました。

これまでエイサーまつりやチャリティーイベントなど、愛知県の様々な場所で声を上げ、多くの方々から託された大切な義援金、それを届ける大役には緊張しましたが、支援センターに遊びに来た子供たちやお母さん方の笑顔、支援センターで働く皆さんの力強く元気な姿を実際に目にしたことで、協議会での活動の意義をしっかりと感じる事が出来ました。そして今回も私たちが現地から支えてくれたのは、現在も被災地を支援し続けているボランティア組織「遠野まごころネット」の木更さん。その木更さんと陸前高田市と大槌町を回り、仮設商店街や仮設住宅でチラシ配りをして、現地の物産館やブドウ園などで挨拶回りを行いました。陸前高田市では昨年になかった巨大なコンペアーが組上がり、山を削り、その土を

す。今はまさに天職ともいえる業務です。

Q6、沖縄に対してどのような想いがありますか

A 平成八年から沖縄での仕事に従事して、これからの沖縄については沖縄県独自の潜在能力を活かした様々な分野での発展を期待しています。

現在沖縄は、基地問題など大きな問題を抱えてはおりますが、沖縄の将来性、沖縄の持つ潜在能力は、すごいものがあると思つています。沖縄を中心として見た場合、日本からシベリア、中国、台湾、香港、東南アジアまで大きな円で囲むことができます。まさに沖縄は東アジア・東南アジアの中心になれる場所です。このような地域特性を活かすために沖縄県としても頑張つていきたいと思います。

Q7、現状の沖縄の課題とこれからの沖縄の進むべき道は？

A 現在、全日空さんが那覇空港を拠点にして、沖縄国際貨物ハブを構築され、アジアの主要都市への国際航空貨物便を運航しております。日本から送った荷物が、那覇空港を経由して翌日にはアジアの主要都市に到着するという高速物流システムがすでに確立されています。これらを活用し、沖縄へ多くの企業を誘致し、また日本全国各地の荷物を沖縄で集約し、アジア各国へ展開していくようなビジネス、まさに琉球王朝時代の交易・中継貿易が復活できるよう頑張つていかなければなりません。

Q8、愛知県についてどう思われますか。愛知県民や愛知県で暮らす沖縄出身の皆さんに対しては沖縄県のような情報を提供していきたいのですが、

A 私は大阪出身ながら、恥ずかしながら愛知県についての知識はほとんどありませんでした。実際、愛知県に暮らしてみても感じることとは、ものづくり製造業が三六年連続日本一、農業生産も全国六位と、第一次産業、第一、農業生産も全国六位と、第一次産業、第

コンペアーで運び、市街地のあつた平地をかき上げて新たな街を作ろうとしています。昨年は何もない、放置されたままのような元市街地に、哀れさと無力感を感じました。そして今年、日々積みあがっていく盛り土の山は、力強い未来のようにも見えましたが、現地の皆さんにはどのように映っているのでしょうか。木更さんについて聞いて現地の皆さんの笑顔も見て、先ずの見える不安の話も聞きました。空き部屋になった仮設住宅もありましたが、ほとんど仮設住宅には今も、お年寄りや子供たちが暮らしています。協議会としてこれからも被災地に開わり、来年もこの場所に来たいと思つています。

琉球國琴太鼓 東海地区 小林田宣

今年には私にとって2回目の東北遠征でした。エイサー 演舞やお菓子配りに加えて、『交流室をメインに2日間、活動してきました。クラフト太鼓を現地の子供たちと一緒に作ったり、琉装体験してもらい記念写真をその場でお渡したり、クラフト太鼓を作った男の子が飛び跳ねて喜んでくれたのが印象的でした。



また、琉装体験では「沖縄に行った気分になった！」「新婚旅行で行つた沖縄を思い出した」などと、笑顔でお話をする時間がかつたことがとても嬉しかったです。

焼き鳥屋さんなど、エイサー臣下がお店の方々と交流する時間を持つことが出来て、笑顔が広がっていました。現地では、1年前との変化が色々ありました。商店街のそばに新しくスーパーやアパートが立ち並んでいたりと、陸前高田の「奇跡の二本松」に

二次産業とも、とても盛んで、様々な意味で大変豊かな地域であると感じました。あと言葉が多少の地域性はあるかと思つていますが、標準語に近いのがびつくりしました。

Q9、愛知沖縄県人会連合会や会報読者の皆さんへ一言お願いします。

A 故郷沖縄を離れ、東海、愛知の地において数多くの皆様のご活躍されていることを沖縄県人として誇りに思つています。様々なご苦労があつたと思いますが、現在においても、まさに沖縄のゆいまいの精神がしっかりと受け継がれていることに感銘を受けました。私も微力ながら沖縄と愛知の架け橋となればと思つていますので、今後ともよろしく願つていただきます。

沖縄県名古屋情報センターは来の中日ビルの4階にございます。観光情報をはじめ、沖縄への企業誘致、高校生の雇用など、様々な沖縄に関するお問い合わせに対応させていただきます。県人の皆様も、ぜひお気軽にゆんたくしに遊びにいらしてください。

芦谷センター長 貴重なお時間をありがとうございました。聞き手 文芸業代子

私の戦争体験 ④

黒島彦(知多郡阿久比町在住)

大阪で生まれ、両親の故郷、石垣島に疎開した時に九死に一生を得た黒島彦(ひろし)さん(七九歳)が、昨年、在住の阿久比町の老人会で語つた戦争体験を県人会の紙面でも紹介して頂ける事になりました。貴重な体験を5回に分けてお送りいたします。

豪華客船タイタニック号

イギリスから新大陸アメリカに向けて大西洋を航行中、四月十四日午後十一時四十分、氷山に激突して沈没事故を起こして、船内の乗客は大パニック状態となり、救命ボートは定員は献花台が設けられていました。また、高台に住宅地を作るための大規模な工事が着々と進んでいて、山から土を運ぶための巨大なベルトコンベアーにはとても驚きました。

人間の力です。い！

復興に向けた動きは進んでいるかのように見えますが、一方で、津波の被害を受けた悲しい思いは変わらなくて、現地の方々の生活は不便のまま。布地屋さんが津波で流されちゃつて、欲しいものが買えない…というお母さん。仮設住宅にお風呂はあるけどくつろげないから、毎日、旅館の大浴場に通っているおばあちゃん。

前は一日何百人もボランティアに来てくれたけど、最近は何も来なくなる人はいなくて、寂しいという商店街のお母さん。1年前にも感じたことですが、現地の『いま』を知ること、そして、続けていくことが大事だと改めて感じました。

『遊びにきたよっ！』
という気持ちで、
来年もまた、会いに行きたいと思つています。

まいふなエイサー
長嶺 悠子



愛知沖縄県人会連合会 賛助会員随時募集中 ここから→

◇愛知沖縄県人会連合会から協賛広告募集◇
2015年度の沖縄ガイド、会報、毛遊びの協賛広告を募集いたします。皆様方のご協力をお願い致します。

愛知琉球エイサー太鼓連
会長 奥間 貴祐記
E-mail taikoren_8131@yahoo.co.jp
URL http://www.geocities.jp/eisa_taikoren
「愛知エイサー」で検索！ メンバー大募集中！

技術部長 砂川 盛一
SUNAKAWA SEIICHI
沖テック有限会社
〒489-0875 愛知県瀬戸市山の田町43番389
TEL(0561)89-5558
FAX(0561)89-5538
e-mail:okitech@poppy.ocn.ne.jp
愛知県知事許可(政)20100393号
HP http://www.oki-tech.co.jp

愛知 まいふなエイサー
第十代 会長 砂川 盛一
Sunakawa Seiiti
携帯: 080-5159-6689
mail:sunakawa.05159@gmail.com

酒場(泡盛)ぐらんでいぢや
〒457-0047
名古屋市西区幡下2-5-7第2ビル7F
営業時間 18:00~0:00 休日/日曜、祝日
TEL 052-571-3780 ※名駅南にて3号店オープン

沖縄家庭料理 世果報 林 久江
〒473-0912 豊田市広町4丁目512
TEL0565-52-4727 携帯090-7681-9387
営業時間 17:00~21:00
定休日 日曜日・第3月曜日

琉球民謡保存会・東海支部 山田文門民謡研究所
教師 山田 文門
〒460-0012 名古屋市中区千代田3丁目14-1
TEL (052) 253-6190
携帯 090-1414-9905